

丸岡城偶成

まるおかじょうぐうせい
丸岡城偶成

てんいん
天韻

おくやまひでお
奥山英雄

香雲瑞靄古城邊

こううん ずいあい
香雲 瑞靄
こじょう ほとり
古城の辺

扶杖媪翁苔磴前

ふじょう おうおう
扶杖の媪翁
たいとう まえ
苔磴の前

曾賞春光高閣上

かつ しゅんこう しょう
曾て春光を賞すは
こうかく うえ
高閣の上

至今纔仰石薨先

いま いた わずか あお
今に至りて纔に仰ぐ
せきぼう さき
石薨の先

(大意)

春先の雲がたなびき、かすみがかつた古城のほとり、杖をつきながらの老夫婦、苔むす石磴の前に立って、曾て春の陽ざしを賞したのは、お城の天守閣からだつたが、今やもう高閣には上れず、ただ、石の屋根瓦を仰ぎ見て、その先の桜花を賞すばかりだ。

瑞靄　かすみがたびくさま。

石薨　石の瓦。